

Focus on!

国際交流ステーション

市町村や市町国際交流協会、NGO/NPOなどの活動紹介や最新ニュースをお届けするコーナーです。

NPO 法人シェイクハンズ (日本語学習支援基金 日本語教室学習支援事業認定団体)

NPO 法人シェイクハンズは、「寺子屋」と呼ばれる放課後の居場所の運営が、主な活動です。

ここでは、外国にルーツを持つ子どもたちを中心に 70 余人が登録し、毎日 20 ～ 35 人が通ってきています。子どもたちは、希望や日本語の習得状況により、週 1 回～週 4 日の参加を選択しますが、最初に保護者と一緒に面談をして、日本語・学習の状態や保護者や家庭の状況、希望する事などを聴き、個別の寺子屋での支援・応援の方向性を決めます。

また、日本語学習だけでなく「居場所」としての役割も大切にしたいので、遊びや野外体験などのプログラムの充実も目指します。学習時間が終わった子どもたちは、別室でブロックやカードゲーム、読書やお絵描き等をして、思い思いの過ごし方をします。ピアノやギターに触れるうち、どんどん上達していく子もいます。体を動かしたい時には、階下の児童センターの体育室を利用する事も出来ます。



▲畑での作業の様子

一番の人気は農作業。近くに小さな農園を作って、皆（保護者や近隣の人も含めて）で、さまざまな野菜を育て、山羊の飼育も楽しんでいます。農園は、子どもたちにとって宝庫。虫探し、ザリガニ釣り、泥んこや水遊び！と、遊びが尽きる事はありません。山羊の可愛さに癒され、夕日のきれいさに皆で感動できる場、散歩する近所の人とのふれあいの場でもあります。学校になかなか慣れなくても、少タイヤなことがあっても、この場での体験が潤いの一つになれば！と、願っています。

日本語や学習の成果が、すぐには目に見えないなどの課題はありますが、保護者を含めて「寺子屋」での交流が、将来の子どもたちの道の幅を広げる事に繋がると信じて、ボランティアも頑張っています。

▲勉強風景



NPO 法人シェイクハンズ

住所：犬山市字裏ノ門 55-1 (楽田児童センター 2 階)
Tel：0568-39-5266・090-9940-2939 Fax：0568-48-1533
E-mail：info@shake-hands.jp URL：shake-hands.jp

Focus on!

世界の街かどレポート

世界各地で活躍する方々に現地の活動や交流の様子をレポートしていただくコーナーです。

マダガスカル (JICA 海外協力隊 板倉 めぐみ)

「マダガスカルからマナオーナ！！」

町を歩いていると「マナオーナ (こんにちは) !」とたくさんの方が声を掛けてくれます。

その後には「イヌナ ニィ ヴァウヴァウ (なんか新しいニュースはある?)」のフレーズのセットが定番で、つついそこから立ち話がスタート。

マダガスカルの主食はお米！日本人と同じように、時々パンや麺類も食べます。調理をするときは炭とかまどを使うのが一般的で、子どもたちも平日頃手伝いをしているからか慣れた手つきで火を起こしていきます。そして、驚いたのが小学校のあるクラスで「生きた鶏を捌くことができる？」と聞いたところ、半分以上の子どもが手を挙げたことです。普段の食事はお米いっぱいにおかず。お肉は高価なためたくさん食べることはできませんが、パーティーの時には鶏や豚(キブ)を捌くところから始めることが多いです。

マダガスカルでは、「子どもがこんなこともできるんだ！」と驚くことがよくあります。就学前の子がさらに下の妹や弟を連れて市場でお使いをしていたり、カフェを覗くとおやつとコーヒーを 1 人で食べたり飲んだりしていたり。そして、小さな子もコーヒーを飲むことにびっくり！砂糖は入れますが、1 人で静かにコーヒーをすする姿を見てかっ



▲活動先の子もたちがお祭りでソーラン節を披露！



▲カメラが好きな子どもたち

こいいなといつも思ってしまう。店員さんや周りの人々に優しく見守られ、子どもたちはいろんなことを経験し、成長していくんだなあと、そういった姿を見るたびに温かい気持ちになります。

とって温厚なマダガスカル人。どんなときも「気にしないで」「ゆっくり、ちょっとずつで大丈夫だよ」と優しい言葉を掛けてくれます。まだ、言葉が十分に伝わらなかつたり、日本と異なる暮らしに戸惑ったりすることもあります。マダガスカル人と一緒に生活を送る中で幸せだなあと思うことがとてもたくさんあります。これからの日々も自分にできることを探しながら、楽しい日々を送っていきたくです。